

■奈良県■ リバーウォッキングの実施について

海に面していない奈良県では、山と川が身近な自然であり、歴史と文化の源です。奈良県では、山と川の重要性や魅力について理解を深め、美しい山と川を次世代に残すことを目指して、国民の祝日「海の日」である7月第3月曜日を「奈良県山の日・川の日」とする条例を平成20年に定めました。



その関連行事の一環として奈良県では、上流がきれいな水であることが、海もきれいな水になるとのことで、子どもの頃から川に親しむ機会を通じて水環境や水質改善に対する意識を高めるために、県内の小学校等を対象にリバーウォッキングを実施しています。河川で探した水生生物を題材に、分かりやすく水質や河川環境について学べるような内容となっています。

専門の講師（環境科学博士の谷幸三先生）による講義では、水生生物を指標にして調査した川の水質を4段階で判定し、川の水の汚れの原因や、川を汚さないために自分たちには何ができるのかを考えます。

令和6年度は、奈良県内の淀川水系周辺の3つの学校でリバーウォッキング（うち1校は雨天のため講義のみ）を実施しました。

令和6年7月9日（火）に福住小学校の5、6年生の皆さんと布目川で実施したリバーウォッキングでは、きれいな水にすむサワガニが観察されました。また令和6年9月10日（火）に大宇陀小学校の4年生の皆さんと宇陀川で実施したリバーウォッキングでは、昨年度実施したリバーウォッキング全17校で3番目に多い、計11種もの水生生物が観察できました。

小学生がリバーウォッキングを行うことで、教科書で学ぶ内容を実際に体感でき、環境のつながりや生物の多様性の重要性を理解できます。また、川の水質が悪い場合は、環境保護への意識を高めることができます。これらの体験を通じて、子どもたちは将来の社会で責任を持って行動する大切さを学びます。

自然科学への興味を深めるとともに、協力や環境保護の重要性を学ぶリバーウォッキングをこれからも継続し、「川を汚さない」「きれいな川をこれからも守っていく」という意識を醸成し、誇りと愛着を持てる奈良の美しい山と川を育み、次世代へ引き継いでいきたいと考えています。



福住小学校で観察されたサワガニ



大宇陀小学校での
リバーウォッキングの様子